

公益社団法人米沢有為会

興讓館寄宿舍OB会 通信 第2号(2017.10)

編集・発行
公益社団法人米沢有為会興讓館寄宿舍OB会
〒182-0004 東京都調布市入間町 1-36
東京興讓館内
連絡先 nkanno@wonder.ocn.ne.jp
会員名に続く()内は、寄宿舍名と入舎年

米沢有為会本部の新体制

～舎生 OB 多数が参画して発足～

米沢有為会が公益社団法人に移行して第4回定時総会が、6月24日(土)、米沢・伝国の杜において開催され、新しい理事及び監事を選任、引き続き理事会で会長・副会長の互選が行われて、米沢有為会本部の新体制が、次のとおり、発足しました。任期2年。

◆名誉会長 上杉邦憲 ◆会長(代表理事) 大滝則忠(東39) ◆副会長(同) 平山英三 ◆理事 [総務部長] 加藤国雄(東39)、[育英事業部長] 伊藤和夫(仙40)、[地域振興部長] 種村信次、[文化広報部長] 手塚宮雄(仙41)、青木恵子、甲國信(仙37)、川合勝雄(東41)、五雲寺卓、佐藤憲一(東44)、鈴木吉助、鈴木幸一、宮坂孝夫(東42) ◆監事 伊藤秀太郎(東43)、菅野憲幸(東42) ◆興讓館長 [東京] 川合勝雄(東41)、[仙台] 滝口政彦(仙40) <下線が舎生OB>

この新体制で、再来年に創立130周年を迎える時期の米沢有為会のビジョンと活動計画を取りまとめる検討から始めています。よろしくご鞭撻とご協力をお願いします。(大滝 則忠)

<特別寄稿>

寄宿舍70年の歩みを編んで

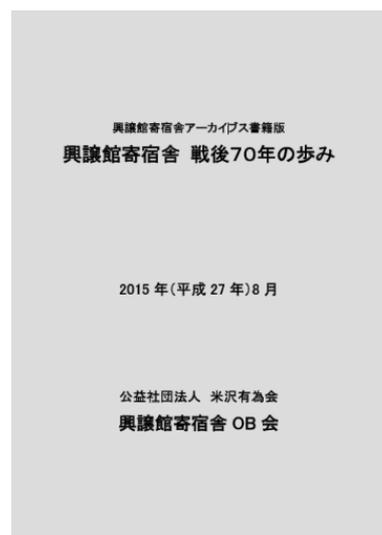
樋口 正宏 (東37)

歴史には語り継ぐ歴史もあれば、書き繋ぐ歴史もあります。昨年、舎生OB会発足25周年記念事業として「興讓館寄宿舍戦後70年の歩み」を編纂しましたが、その編集にかかわることとなり、米沢有為会会誌に記載された「興讓館だより」を、昭和24年から平成26年までのおよそ70年分を初めて読み通してみました。文頭の感想はその時に読みながら実感したことです。

「興讓館だより」として毎年各興讓館寮から寄稿された記事の量は、1年毎では僅かではありますが、70年を積み重ねること何と450頁もの長編となりました。紛れもなくこれは戦後の興讓館寄宿舍の舎史です。その特徴は筆者の全てがその時々在舎していた舎生で、二十歳を出たばかりの若者ということです。筆者数は延べ173名にも及び、まさに糸を紡ぐように450頁を書き繋いだということになります。

時代により場所により、あるいは筆者の置かれた環境により、描き様はさまざまですが、学生固有の感性のようなものは深い所で相通じているように感じます。舎生相互の交流の状況や諸行事の様子、そして寄宿舍を構成するハードとソフトの実情を、当時の社会情勢にも触れながら若者らしい文章で描かれています。

また、どの年度の興讓館だよりも、その年に在籍していた舎生の氏名が記載されており、懐かしい名前を目にしたときなどは、その活字の向こうに当時の顔かたちまでが浮き出てくるから不思議です。



興讓館寄宿舍OB会の総会

11月18日(土) 15時～18時

会場：主婦会館プラザエフ (四ツ谷駅前)

- ★ご参加をお待ちしております。
- ★返信ハガキに、近況をお書きください。
- ★お差し支えなければ、この『通信』誌上でご紹介させていただきます(次号は1月刊)。

